



## Stage 3

このレベルでは、母音二文字の組み合わせで出来上がるフォニックスです。これを知っているとスペルを覚えるのが大変楽になります。中学英語文法もそうですがやはり単語が読めない、書けないが原因で英語が嫌いになるケースも多くあります。その原因の一つがこの母音二文字の組み合わせでできるフォニックの読み方です。ここにも暗号があるのだというワクワクした経験を小さい頃からしていれば、読むのも、書くのもスラスラできるはずです。

### フォニックスアクティビティー

#### 絵本カルタ

このレベルをはじめると全てのテキストをもらった時点で 自分の本を全部広げ、絵本カルタをします。先生はタイトルを読み子供達はそのタイトルの絵本をカルタの要領でとっていきます。タイトルの中にはこのレベルでの Focus Phonics が必ず入っています。つまりこれが認識できればこのレベルの謎解きは終わったようなものです。子供達は競争が大好きです。夢中で絵本カルタ取りをしてくれるはず。慣れてきたら、子供達に読み手になってもらいましょう。

#### 早読み競争

同じ Focus Phonics で読む単語を集めて 紙に書いておきます。例えば、ai とまず大きく書いておき、その下に rain, again, pain, pail, nail, wait ノリノリラップミュージックなどをかけながらリズムに合わせて読みます。rain, rain, again, again, 最後はまとめ読みです。” rain, again, pain.....”言えたら合格。私もよく子供達と一緒にいきますが、発音の練習、英語筋肉トレーニングになります。

#### coat といったのは誰だ？

同じ Focus Phonics の単語を 例えば 3 人に振ります。

A君 coat B 君 soap C 君 soak そして三人同時にその単語を言ってもらいます。さ～て、この中で moon といったのは誰か？と当てるゲームです。意外と分からないものです。言う方もしっかりと発音できていないと相手につられてしまいます。ちょっとワクワクして盛り上がるアクティビティーです。

#### スペルカルタ

スペルができるようにカードの数を用意します。先生が moon といったら m o o n とカードをとりま



## 色々な音読

気をあわせて読もう

二人組みになります。文章のどこでも切ってもかまいません。相手はその切った部分から続けてよみます。よく相手の英語を聞いていないとわからなくなってしまいます。ただセンテンスごと読むのと違い、どこで切られるのかわからないので Reading に緊張感が沸きます。

シーンを作ろう

もしお話で特に子供達が好きなものがあればその部分をより深めてストーリーをつくるというのはいかがでしょうか？子供達の一番反応がよかったものは、The Moon Jet です。jet に乗るということ、そして月に行き the moon bugs に出会う。子供達の好きそうな世界ですね。今まで紹介したような読み方をやり子供達が読めてきたら、たとえば The Moon Jet ページ 12、13 のところで、moon bug のほかにどんなものにであったか？考えてもらいます。ただし、oo という音の入った単語のもの。または、自分達で作った単語でも楽しいです。

例 The jet got to the moon. I am on the moon. But the moon bugs ran up.

The boo-boo bugs ran up. ( ? boo-boo bugs っていったい何？ いつもおならをしている虫だそうですね。)

The goon-goon ran up.( ? goon goon っていったい何？ グン、グンのびる月だけに生息する木だそうですね！)

自分達で考えると英語の世界がぐっと近く感じるはずですよ。

英語芸術学校マーブルズ 主宰 小口真澄

<http://www.marbles1008.net/>